

◎1回戦 10月12日（土） 芦別市なまこ山総合運動公園

【結果】 網走南ヶ丘 1 $\begin{pmatrix} 0-3 \\ 1-0 \end{pmatrix}$ 3 北海

秋らしい涼しく過ごしやすい気温で、やや滑りやすい地面でしたが良好なピッチ状態でした。

北海は今年のインターハイに出場し札幌ブロックリーグ1部で優勝するなど今大会の優勝候補の一角で、打倒私立、選手権ベスト4入りを目標にしているチームにとって必ず乗り越えなければならない相手。

強豪にぶつかっていく緊張もありますが、ここまで積み上げてきた自分達の力がどれだけ通じるのか、組合せが決まってからずっと楽しみにしてきました。

守備的な時間が多くなる前提で、中央をしっかり閉じた上で北海のストロングポイントであるサイドチェンジ→サイド攻撃、高速カウンターに足を止めずに粘り強く対応することができればと考えていました。

《前半》

試合開始から大きなサイドチェンジを絡めながら個で勝負できる選手がサイドからどんどん仕掛けてくる展開。準備はできていたのに数的不利になることはありませんでしたが、しかし、やはり一つ一つのプレーの質が非常に高く、立ち上がりはそこに慣れるまでに多少バタバタしてしまっただけかと思えます。

イメージはしていたものの、一気に強く寄せてかわされたり、足を出して倒してしまう場面が何度もありました。サイド攻撃への対応は1対1が中心なのでセットプレーが増えることがありますが、前半がまさにそうでした。

（前半CK7本）前半8分・30分にCKを合わされ失点。ADにはサイドからのFKを合わされて前半で3失点してしまいました。

前半は2：8～3：7くらいでゲームを支配され、シュート数は北海が13、南ヶ丘が2。しかし個に押し込まれながらもサイドの選手が粘り強く戦っていたので流れから崩されることは少なく、ゴール前の勝負、中央からの攻撃にも力強く丁寧に対応できていたと思います。

攻撃では、序盤はボールを相手陣地まで運ばず自陣で失うことが多かったと思います。

必要以上にプレッシャーを強く感じてしまい、守→攻の場面で判断ミスが多くありました。

カウンターの場面ではロングボールに対して前線の選手が数的不利の状況でよく戦っていましたが、DFラインを割ることはできませんでした。

残り15分くらいから連動したパスが通る場面が増え始めましたが、FWを起点に人数をかけて関わる展開にまでは持ち込まず、前半でゴール前のチャンスを作れたのは1回だけでした。

3点ビハインドですが、ハーフタイムでベンチに戻った選手達は「北海は強い」「自分たちはやれる」というどちらの実感も持っていました。前向きな雰囲気の後半に向けて気持ちを整え、後半に臨みました。

《後半》

立ち上がりから互いの中盤～守備ラインでの攻防。

全体の位置を押し上げてプレーできるようになったことが後半の大きな変化でした。

前半より高い位置でボールを奪えたのでペナルティエリア付近に押し込まれる場面は減り、中盤で強度の高いプレーが連続するようになりました。

また、前半からほぼ互角であった前線でのハイボールの競り合いでは、近くに複数の選手が顔を出してルーズボールを回収し、プレッシャーを回避しながら組み立てていく場面が多くなり、効果的に人が関わりサイドを突破する場面も増えました。

しかしやはり相手の守備ラインは堅く、特にバイタルエリアではなかなか前を向かせてもらえず、流れの中で大きな決定機を作ることができませんでした。

69分にペナルティエリアの中央手前付近で得たFKを見事な弾道で直接決めて2点差とし、さらに勢いを持って攻勢に出ましたが、追撃及ばずタイムアップ。悔しい初戦敗退となりました。後半は4：5～5：5の展開でシュート数は両チーム4本ずつ。与えたCKは2本でした。

《成果や課題など》

- ☆攻守の切り替え・・・攻守は日頃から徹底できるよう取り組んでおり、1試合を通して高い強度と質を維持できました。ここが徹底できなければ勝負にならないので、当たり前に行えることがやはり最低限だな、と改めて思いました。ただし、守→攻の切り替えについては認知と判断のミスが多く、改善しなければならないと思います。時間はかかりますが、攻守の切り替えはトレーニングで確実にレベルアップできる部分だと思います。
- ☆フィジカル面・・・コンタクトの場面だけではなく、強度の高いプレーが連続する場面においても互角以上の戦いができたと感じます。日頃からフィジカルコンタクトへの耐性を身に付け、強度に慣れるようにしてきたことはもちろんですが、特に冬から取り組んできたオフバランスからのリカバーや動き出しを高めるトレーニングは非常に効果的であったと感じます。また、ブロックリーグで90分ゲームを年間通してプレーするようになったことも効果のひとつだと感じています。
- ☆セットプレー・・・北海のセットプレーはボールの精度が高く、ヘディングの強い選手も揃っているため警戒してはいましたが、相手の狙い通りの形で失点しました。高体連の全道大会でも課題であった部分です。マークや寄せることで終わらず跳ね返すことができなければ勝つ可能性を上げられないと改めて実感し、日常から時間をかけて取り組む必要性を痛感しました。
- ☆個の仕掛け・・・相手のレベルが上がるほど、攻撃で数的優位を作ることができる場面は少なくなります。特に攻撃時に1人1人が担う役割は大きくなり、サイドでの1対1では先手を取りに行く姿勢が必要です。失うリスクも当然ありますが、北海はサイドで個がとても積極的に仕掛けていました。それが多くのセットプレーを生み、試合の結果に大きく影響しました。
- ☆コミュニケーション・・・高強度の試合の中で認知や判断のミスを防ぎ、連動した攻守の関わりを生むには質の高いコミュニケーションが必要です。プレー中の改善点を見つけやすく共有することはできていましたが、プレーの瞬間の一手・二手先につながるコミュニケーションの量は北海の方がはるかに多く、個のプレーをさらに質の高いものにしていました。時間をかけて取り組まなければならない課題です。